

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）

個人研究

2 0 2 5 年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職名	氏 名
	文学部キリスト教学科・教授	加藤喜之
研究課題	終末論とイスラエル：米国福音派のシオニズムにおける宗教的動機と地政学的利害の交錯	
研究期間	2 0 2 5 年 度	
研究経費 (1 円 単 位)	(支 出 金 額) 981,908 円 / (採 択 金 額) 1,000,000 円	
研究の概要 (200～300 字で記入、図・グラフは使用しないこと。)		
当該研究の研究目的を含むこと。 【以下、報告書全体について】他の研究分野の委員が評価することも想定し、わかりやすく記載すること。		
本研究は、米国福音派におけるシオニズムの思想と歴史的展開を解明することを目的とし、とりわけ 1980 年代以降の宗教右派とイスラエル・リクード政権との関係に着目するものである。終末論的信念に基づく宗教的動機と、冷戦後の地政学的利害がいかに結びつき、対イスラエル支援という政治行動を形成してきたのかを、文献調査およびアーカイブ資料分析を通じて明らかにする。		

キーワード (研究内容をよく表しているものを 3 項目以内で記入。)
〔キリスト教シオニズム〕〔ユダヤ人〕〔米国政治〕

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

以下の視点を含めて記載のこと。

- ・当該研究は何をどこまで明らかにできたのか(できなかったのか)。
- ・何をもって研究成果(経過)を達成できた(できなかった)と考えられるのか
自身が設定した研究目的・目標に照らして、その根拠がわかるよう記載のこと。
- ・どのような点において、当該研究分野の学術研究推進の高度化に寄与できたのか。

本研究は、1980年代から90年代にかけての米国福音派のシオニズムについて、宗教右派の指導者ジェリー・ファルウェルを中心とするアクターとイスラエル・リカード政権との相互関係に着目し、その思想形成および政治的展開の具体像を体系的に明らかにした。とりわけ、福音派の終末論的信念が単なる宗教的確信にとどまらず、対イスラエル外交や国内政治における政策選好、さらには政党間の同盟関係の形成にまで影響を及ぼしていた点を、思想史的分析とアーカイブ資料の検討を通じて実証的に示した点は、本研究の中核的成果である。

加えて、1967年の六日間戦争以降に進行した主流派プロテスタントのイスラエル批判と、それに対抗する形で福音派が支持を強化していく過程を位置づけることで、福音派シオニズムの歴史的転換点をより明確に描き出した。また、福音派とイスラエル側アクター(政府・ロビー団体)との関係が、宗教的共鳴のみならず相互利益に基づく戦略的パートナーシップとして深化していったことを指摘し、宗教と国際政治の接合領域に新たな視座を提供した。

さらに、福音派内部における反ユダヤ主義的傾向の変容と親イスラエル志向の強化という思想的転換についても、その歴史的文脈を踏まえて一定の説明を与えることができた。

他方で、本研究にはいくつかの限界も残された。第一に、福音派内部の神学的・組織的多様性を網羅的に分析するには至らず、とくにカリスマ派の台頭や草の根レベルでの支持形成のメカニズムについては、さらなる実証的研究が必要である。第二に、2000年代以降の動向、すなわちトランプ政権期に顕著となる宗教右派とイスラエル政策の結びつきについては、本研究の対象範囲外にとどまっており、今後の課題として残されている。第三に、ユダヤ人側の受容や批判、さらには両者の相互認識の変化についても、一次資料に基づくさらなる検討が求められる。

研究目的との関係では、①1980年代から90年代における福音派シオニズムの思想的・政治的展開の解明、②宗教的動機と地政学的利害の交錯の構造的把握、という当初の目標は概ね達成されたと評価できる。その根拠として、先行研究では断片的に論じられてきた現象を、特定のアクターと歴史的文脈に即して統合的に再構成し、一次資料の分析によってその妥当性を裏付けた点が挙げられる。

本研究の学術的意義は、従来ユダヤ史あるいは中東政治の文脈で扱われることが多かったシオニズムを、米国福音派というキリスト教的主体の視点から再定位した点にある。これにより、宗教学・思想史・地域研究・国際政治学を横断する新たな分析枠組みを提示し、日本における福音派研究および宗教と政治の関係研究の理論的深化に寄与した。さらに、本研究は、現代の米国政治における宗教の役割を理解する上での基盤的知見を提供するものであり、学術的のみならず社会的にも一定の波及効果を有する成果であると位置づけられる。

研究成果の概要 (つづき)

※この(様式 2)に記入の、成果の公開を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表

(研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

①雑誌論文(著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)

②図書(著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)

③シンポジウム・公開講演会等の開催(会名、開催日、開催場所)

④その他(学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文(著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)

加藤喜之『『キリスト教的』連邦政府：政治資源としての福音派と保守カトリック』『外交』96号、2026年、78-83頁。

加藤喜之「取り残されないために：米国福音派のシオニズムとメディア戦略」『現代宗教』2026年、41-60頁。

加藤喜之『『殉教者』カークと宗教化するアメリカ政治』『中央公論』1706号、2025年、152-159頁。

加藤喜之「アメリカを揺るがすキリスト教ナショナリズムの本質」『世界』999号、2025年、106-114頁。

加藤喜之「トランプを支える聖書の『政治学』：キリスト教シオニズムとは何か？」『Voice』2025年9月、208-215頁。

② 図書(著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)

加藤喜之『福音派：終末論に引き裂かれるアメリカ社会』中央公論新社、2025年、312頁。